

市民の皆さんの疑問にお答えします

～環境資源ギャラリーの建て替えについて～



衛生施設組合 HP



現在の環境資源ギャラリーは、2005年9月に供用開始し、20年が経過しようとしています。稼働は、地元との協定などにおいて耐用年数20年を目安としており、これまでその後のあり方が検討されてきましたが、機械設備の老朽化が著しく、2020年5月には、ガス化熔融施設の重大トラブルが発生、ごみ処理非常事態宣言を発令しました。

その後も故障が頻発し、2020年度以降、故障によりごみ処理を停止した回数は約120回にものぼり、いつ重大な故障が発生してもおかしくない不安定な状態が今も続いています。

このため、様々な検討が重ねられた結果、掛川市・菊川市衛生施設組合において、2030年4月の供用開始を目標とした新しい環境資源ギャラリーの建設方針が決定され、現在、建設に向けた準備が進められています。

方針決定までの過程やその必要性について、現在の状況を解説します。



Q1 今の施設を修理して使うこと（基幹改良）はできないの？

2021年1月、掛川市・菊川市衛生施設組合が、今後の廃棄物処理施設の方向性を示す「廃棄物処理施設等基本構想」を策定しました。策定にあたっては、学識経験者や地元代表者などによる検討委員会を開催し、その中で、現施設を改良して延命化を図る基幹改良と、新施設の整備を比較し、検討することとしていました。

しかし、施工管理メーカーから、基幹改良にかかる工事費用が新施設建設費※1とほぼ同額の159.5億円、延命期間が、新施設の設定年数20年を下回る10年と示されたこと、

更に2020年5月に発生した施設心臓部の故障※2という重大なトラブルにより現施設の老朽化が顕在化したことなどから、現施設の基幹改良による延命化は極めて困難であると判断し、2022年9月、基幹改良による延命ではなく、新設として進める方針となりました。

※1 基本構想における120t炉の市場調査の平均価格(158.95億円)

※2 施設心臓部の故障とは、焼却炉(キルン炉)そのものが壊れたというもので、基幹改良のためには、現施設の建物躯体を壊してキルン炉を更新する必要があり、新設とほぼ同額の費用がかかります。

また、同じキルン炉を稼働している北海道のクリーン渡島で2018年から行われた基幹改良は、キルン炉の更新を伴うものではなかったため、環境資源ギャラリーの基幹改良より安い金額となっています。

Q2 新施設の建設工事中はごみを出せなくなるの？

2025年3月末で現施設の焼却炉を停止します。現施設は、ごみを外部搬出するための積み替え施設として使うため、今までと変わらず、ごみを受け入れます。

また、地域のごみステーションからの行政回収も、今までと変わらず行いますのでご安心ください。

なお、ごみの外部搬出に伴い、今まで収集されていた時間が変更となる地域が生じる可能性がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

ごみ回収日における、ごみ出し時間(掛川地区8:30、大東・大須賀地区8:00、菊川市全域8:00まで)は変更ありません。



Q3 今動いている施設を止めて、何で5年間もごみを市外で処理するの？ 今の施設を使い続けながら建設することはできないの？

2020年5月の重大トラブル以降も重大な故障が頻発し、直近でも、計画外外部搬出が必要となる重大なトラブルが発生し、ごみ処理がストップした回数は約120回にもものぼっています。

このため、現在も環境資源ギャラリーは、いつ重大なトラブルが発生してもおかしくない不安定な稼働が続いています。

老朽化した施設をこのまま使い続ける場合、突発的な故障などが発生するリスクが高く、また、故障した場合、すぐに受け入れ先を確保するのは困難で、ごみ処理が滞ってしまいます。



外部搬出 HP

このため、次の主な理由から、現施設を使い続けることはせずに、2025年度からごみのすべてを外部搬出することとしました。

① 経済性

現施設を修繕して延長利用するよりも、全量を外部搬出した方が安価であること。

[Q4 参照]

② 安定性

施設管理委託事業者から、現施設の安定的な運転管理は不可能との見解が示されたこと。

③ 安全・安心

老朽化した現施設に修繕を施しても突発的な故障等のリスクが残ること、故障が発生した場合、急にごみの受け入れ先を確保するのは困難であり、ごみ処理が滞ってしまう可能性があること。



故障によりごみ処理を停止した回数

約120回

この内、

○外部搬出を伴う重大な故障（非常事態宣言（2020年5月）以降） 5回

- ・2025. 2. 5：1号炉・2号炉共通の粉碎残渣スクリーンの故障（外部搬出120t）
- ・2025. 1. 26：2号炉熱分解ドラムへのごみ供給コンベアシャフトの破損（外部搬出250t）
- ・2023. 7. 4：2号炉ボイラ手前のダスト堆積による閉塞（外部搬出629t）
- ・2022. 11. 13：1号炉燃焼炉の破孔（外部搬出1,543t）
- ・2020. 5. 24：1号炉熱分解ドラムの支点部割れ（外部搬出4,644t ※非常事態宣言）

○外部搬出を伴わない故障（2020年度～2024年度） 約115回

Q4 ごみの外部搬出によってどれだけ負担が増えるの？メリットはあるの？

現在かかっている管理運営費に外部搬出費用がプラスオンされるのではなく、その差し引きの費用が追加となります。具体的には、5年間で約34.5億円負担が増えますが、施設の重大トラブルにより、ごみ処理が滞るリスクがなくなります。

また、修理して使い続けるよりも安価となります。

【現施設利用と外部搬出の費用の比較】

・ R6の管理運営費	約14億円/年	
・ R7の外部搬出委託費	約15.2億円/年	
管理運営費	約2.8億円/年	
積替施設運転管理費	約2.9億円/年	
<hr/>		
差し引き	約6.9億円/年	→5年間で 約34.5億円の負担増

ごみの外部搬出決定に至るまでに、現施設の延長利用と、可燃ごみ全量外部搬出の概算費用の試算比較を行いました。

その結果、ごみの外部搬出の費用は、必要な施設整備や管理運営費を含め、2024年度から2029年度までの6年間で約120.7億円と試算されました。同じく、比較対象とした「現施設を必要最低限修繕して5年間利用する場合」の試算値は、約131.9億円で、外部搬出と比較すると、約11.2億円高額となりました。現施設の延長利用においては、修理してもなお、重大なトラブルが発生するリスクと、ごみ処理が滞るリスクが残ることとなります。

このことを踏まえて、令和5年度に、両市議会、組合議会において協議され、令和7年度からの全量外部搬出を決定しました。

【修理による延長利用と外部搬出費用の6年間分の比較】(2024~2029年度)

・ 現施設延長利用	約131.9億円	施設修理費	約78.8億円
		管理運営費	約47.5億円
		外部搬出費	約5.6億円
・ 外部搬出費用	約120.7億円	施設修理費	約5.7億円
		管理運営費	約15.9億円
		外部搬出費	約99.1億円
<hr/>			

差し引き 6年間で 約11.2億円

Q5 新しい施設の建設にはいくらかかるの？

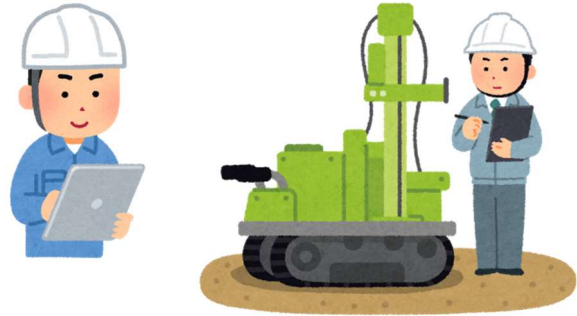
新施設建設工事費として、2025年度から2029年度までの5年間で、約296.3億円が上限額に設定されました。近年の物価高騰などにより、全国的に建設費の高騰が続いています。

なお、この上限額は、2024年12月に複数社のプラントメーカーから正式に示された額の平均で、過去の金額ではなく、現在の市場を反映させたものです。

【他市事例（2024年度契約）】

A市：約399億円

B市：約312億円



Q6 建設の準備はどのくらい進んでいるの？

2030年4月の供用開始を目指して、計画的に準備が進められています。

新しい廃棄物処理施設は、今の施設と同じ敷地内に建設します。建設には広い敷地が必要になるため、今の施設の一部を壊して、敷地を広くする工事を2025年度に行います。

また、新しい施設の建設工事を行う事業者を2025年度に決めます。

2026年度に施設の設計をし、2027年度から2029年度までの3年間で建設する予定です。

2024年度に実施した内容は、次の通りです。

【可燃ごみ積替設備設置工事】

2025年度からのごみの全量外部搬出に伴い、積替設備設置工事の公募型プロポーザルを実施。工事請負契約が締結され、既に工事が完了しました。

受注者：大栄環境（株）

契約額：219,890千円

【積替施設運転管理業務】

外部搬出の積替施設管理を行う事業者について、公募型プロポーザルを実施。

2025年度から2029年度までの委託上限額として、1,518,000千円が設定されました。

受注者：大栄環境（株）

【事業者選定に向けた準備】

新施設建設に向けた要求水準書（新施設について発注者が示す基準）の作成や、事業者選定に向けた準備が進められています。

なお、2025年5月に入札公告が行われる予定です。

受注者：パシフィックコンサルタンツ（株）

契約額：（2024年度）14,883千円 （2025年度）16,500千円

【可燃ごみ外部運搬処理業務】

2025年度のごみの外部搬出の実施について、委託上限額として、1,522,800千円が設定されました。

外部搬出先：静岡市、磐田市、袋井市森町広域行政組合、牧之原市御前崎市広域施設組合、民間3社 ※各自治体と協定を締結

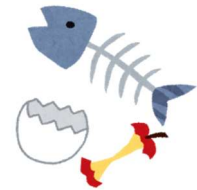
【新廃棄物処理施設建設工事】

新廃棄物処理施設建設工事費について、2025年度から2029年度までの上限額として、29,623,000千円が設定されました。

Q7 脱炭素社会に向け、一緒に生ごみを処理する施設を整備したらどうか。

現在、生ごみは環境資源ギャラリーで焼却していますが、コストやCO₂排出削減の観点から、生ごみを資源化していくことは大切なことです。掛川市・菊川市では、生ごみ処理機の購入に対する補助などを行うことで、生ごみ削減と市民意識の変革を進めています。

生ごみ資源化施設の併設については、2023年6月から8月にかけて、衛生施設組合が行った新施設焼却方式検討の中で、専門家による検討が行われた結果、他の導入事例からトラブルが発生していることによる「安全・安心」の観点、併設によるコスト高による「経済性」の観点、新施設の早期建設を第一優先としていることによる「敷地制約」の観点など、様々な視点からの検討による結果、採用には至りませんでした。生ごみの資源化に向けては、引き続き検討を進めていきます。



Q8 最初は、産業廃棄物も一緒に処理する施設の建設計画があったと聞いたけど、それはどうなったの？

2021年1月、掛川市・菊川市衛生施設組合が策定した「廃棄物処理施設等基本構想」では、一般廃棄物と産業廃棄物の両方を処理する施設の建設を第一優先としていましたが、策定後の社会情勢の変化や、産業廃棄物に対する市民の不安が高まり、「産業廃棄物受け入れ反対」の意思表示が示されました。このため、基本構想はひとつの成果としながらも、その内容に限定されることなく、改めて多方面な視点から、新施設整備の方向性を検討するため、構成市である掛川市と菊川市で立ち上げた検討委員会で検討を行い、検討委員会の提言を基に、掛川市・菊川市衛生施設組合において、産業廃棄物を処理せず、一般廃棄物のみを処理する現在の新施設整備方針を決定しました。



検討委員会 HP



2025年3月 掛川市・菊川市衛生施設組合
掛川市 協働環境部 環境政策課
菊川市 生活環境部 環境推進課